

電子黒板用 多機能教卓

きょう太君[®]

高校でも活用できる!

Y-01c

受注生産品

実用新案第 3154208 号

意匠登録第 1383657 号

登録商標第 5304216 号

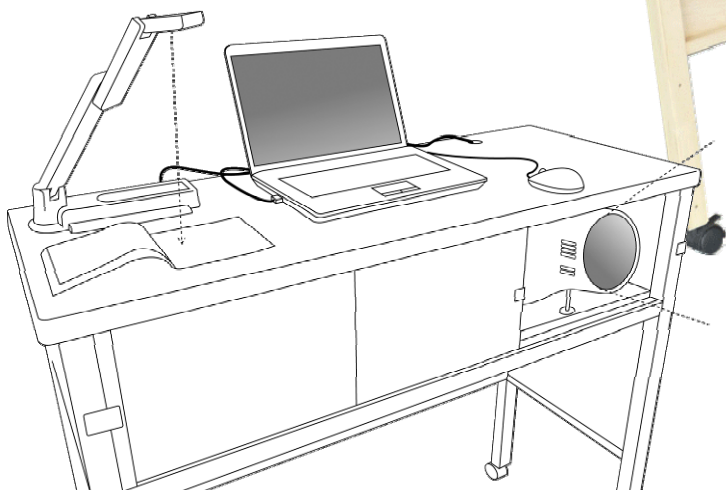


**教室に行けば、
すぐに電子黒板が使える!**

機器運搬・設置不要の
格納式電子黒板用大型教卓で、
いつでも、どこでも、
ICT 授業を支援します。



- 板書との併用に有利な
プロジェクタ式電子黒板に対応
- 液晶プロジェクタ(別売)格納式
- 放熱・保管機能が充実
- 付属キャスターで移動がかんたん
- 関連する機器の保管も可能
- 左右どちらからも投影可能
- 暖かみのある木製筐体



プロジェクトを内蔵したまま投影。
PC やカメラ、テキストなどは全部卓上に。



多機能教卓「きょう太君[®]」の特徴

- PC(*1)または実物投影カメラ(*1)を接続すれば、すぐに授業開始
- 液晶プロジェクタ(*1)は、ドアを閉めればそのまま施錠して保管(*2)
- 広い卓上には、PC、カメラ、テキスト、標本なども全部置け、機器は内部配線可能
- 格納部はメッシュ構造で、液晶プロジェクタの放熱も安心
- メッシュ部分にスピーカー(*1)を設置、語学授業もできる
- キャスター付きだから、小学生でも移動がラクラク
- 電源タップ_(付属)を取り付ければ、コンセントひとつで全機器が同時に使える
- チューナ・デッキ(*1)をセットすれば放送やビデオも見られる(*3)
- ネット環境があれば、インターネットブラウズも可能

*1:いずれも別売りです。

*2:受注生産品のため、プロジェクタのサイズに合わせて格納部を設計可能。(納期・送料は要別途打合)

*3:アンテナ工事および配線が必要です。

「電子黒板は、小中学校向け」と考えていませんか？

電子黒板は、高等学校でも、受験対策授業でも有効に活用されています。

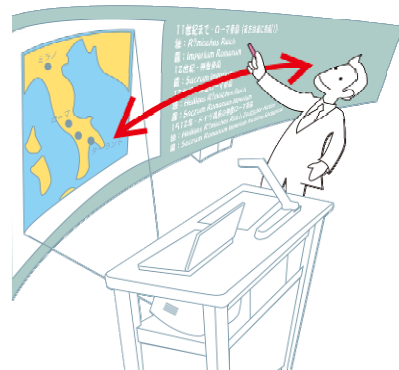
電子黒板とは？

「電子黒板」とは、画像や映像を、プロジェクタや薄型ディスプレイを使って生徒に提示する、新しい電子教具。授業の進め方を大きく進歩させる教育支援機材として、先進国や新興国で、どんどん導入されています。プラズマディスプレイ式電子黒板が、高精細な画像で理科・社会の授業に好適なのに対し、液晶ディスプレイで黒板上のスクリーンに投影する方式は、板書との併用に有利です。

電子黒板の特徴

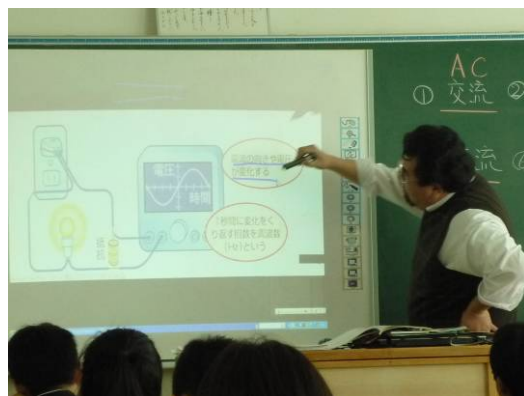
- ・表示方法が多様(興味を高め、理解が進む)
- ・生徒の発表に活用できる(自発性、表現意欲が高まる(中学))
- ・板書時間が節約でき、生徒に向き合う時間が確保できる
- ・授業内容が再現しやすい(内容のレベルアップがしやすい)
- ・授業内容が共有できる(優れた授業内容を多くの教員に展開できる)

文部科学省が推進し昨今急速に普及してきた電子教科書の活用にも欠かせない環境です。



小中学校での活用

小学校・中学校では、実験や実技をカメラで拡大して見せる、地図や資料、ときには関係する映画の一場面、実技のビデオなどを見せることで、さまざまな角度から理解を深めていきます。



高等学校での活用

高校での電子黒板は、中学校とは異なる授業支援効果を発揮します。

- ・ 大量の板書に代えて、パワーポイントやカメラで直接教材を撮影して文章を提示し、傍線・書き込みをしながら講義する
- ・ 掛け図に代えて、さまざまな資料を瞬時に投影、切り替える

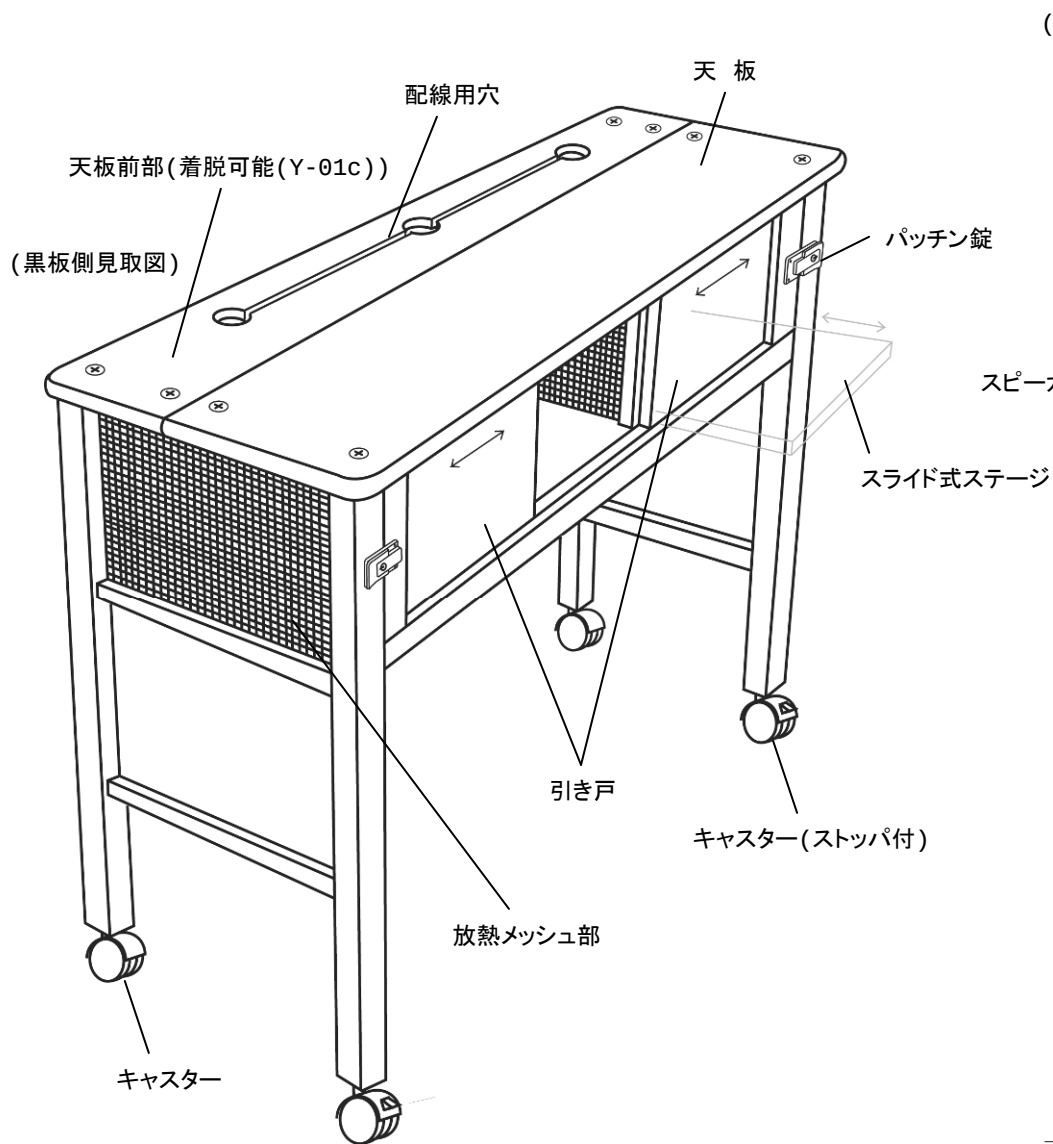
などして、高度な授業でも効率やスピードを上げる、といった板書補助・支援効果が期待できます。

また、

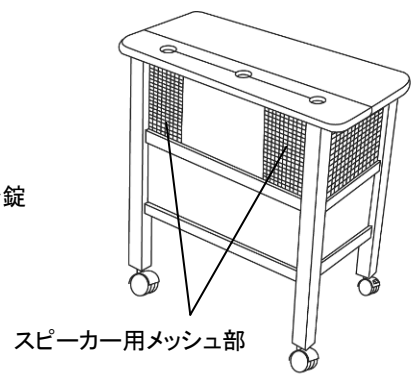
- ・ 重要な部分は板書で強調
- ・ 資料やかんたん「振り返り」は投影で提示

など、授業内容のメリハリを利かせるなどの効果もあげることができます。板書併用式ならではの使い方。

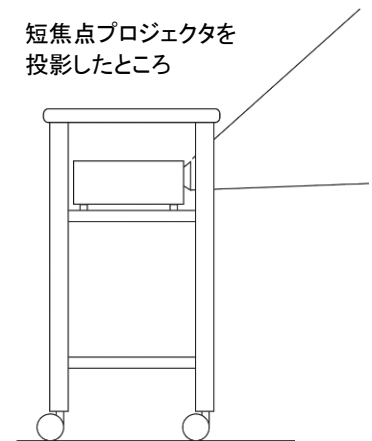




(生徒側見取図)



短焦点プロジェクタを
投影したところ



プロジェクタは、スライド式ステージに設置。機器のスイッチ類を操作するときも、引き出します。
投影・格納は、ステージを引き込ませた状態で使用します。引き戸にはパッチン錠付き。

形式:電子多機能教卓 Y-01b・Y-01c
名称:きょう太君(登録商標登録第 5304216 号)
寸法(標準):幅 1,200mm×高さ 1,100mm×奥行 500~550mm
構造:木製・ウレタン塗装仕上げ。一部金属・プラスチック製

製造者:有限会社ジューン・ファースト
525-0055 滋賀県草津市野路町 2425-7
電話 077-564-9860
ファックス 077-564-9866